

出張報告

報告日 令和7年12月15日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	上森 茜・春川 敏浩・柄沢 均・阿部 基・三嶋 崇史
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	A Iで議会活動が変わる！議員のためのA I実践セミナー
日時	令和7年12月11日 ~ 令和7年12月11日
場所 (会場)	Z o o mでのオンライン
概要	<p>主催：ローカル・マニフェスト推進連盟</p> <p>1. 東京都江東区議会議員（LM推進連盟共同代表）鈴木綾子氏 「地方議員のための生成A I活用術～質問づくり・政策立案・発信の実践例～」</p> <p>○議員D Xの推進</p> <ul style="list-style-type: none">• C h a t G P Tを「相棒」として日常的に活用（質問原稿、政策整理、S N S発信、ラジオ原稿など）• 生成A Iを使った議会質問作成の6ステップ（背景整理→論点抽出→初稿→ブラッシュアップ→表現精査→最終確認） <p>○情報発信の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">• S N Sガイドライン策定による誹謗中傷防止• 「あやこ c a f e ラジオ」やn o t eで質問・答弁を要約し市民へ発信 <p>○画像生成の活用</p> <ul style="list-style-type: none">• C a n v a やF i r e f l yでイラスト作成、議会レポートや広報資料に活用 <p>○成功のコツ</p> <ul style="list-style-type: none">• ゴールを明確化、根拠資料を一括提示、前置きと質問本文を分ける• 出力は必ず自分で最終確認し、議会質問としての一貫性を担保 <p>2. 北海道鷹栖町議会議員 片山兵衛氏 「議会広報における生成A I活用」</p> <p>○議会広報の目的</p> <ul style="list-style-type: none">• 「興味を持ってもらう」「理解してもらう」「参加してもらう」 <p>○A I活用事例</p> <ul style="list-style-type: none">• 定例会案内チラシをA Iで作成（漫画風、特撮風キャラクター「チェックマン」など）

- ・決算審査をテーマに「たかす決算クリニック」などユニークな広報物を制作
 - ・小中学生向け漫画チラシで親しみやすさを演出
- 動画制作
- ・チラシから派生した動画をA Iで生成
 - ・B GMやキャッシュコピーもA Iで提案
- メリットと課題
- ・発想支援・時間短縮・低コストで多様な表現が可能
 - ・一方で「不自然な表現」「誤情報混入」リスクがあり、最終確認は必須
3. イチニ株式会社（選挙ドットコム）代表取締役 高畠卓氏
「A Iを活用したネット広報～ブログ・動画の作り方～」
- 選挙ドットコムの事例紹介
- ・年間2,800万ユーザー、地方選挙で特に利用率が高い
 - ・投票マッチングツール利用者は最新で400万人超
- ネット献金の拡大
- ・東京都知事選で2億8,500万円、参院選で1億8,000万円の事例
- 広報戦略
- ・ブログS E O対策：検索エンジン上位表示を狙う
 - ・動画戦略：ショート動画量産、1動画1テーマ徹底
 - ・S N S活用：Y o u T u b e ・ X が特に影響力大
- A I活用の効果
- ・ブログ記事や動画構成をA Iで生成→政策立案や意見聴取に集中可能
 - ・ターゲティング広告やネット献金機能と組み合わせ、選挙広報を効率化

Q & A

Q 1. A Iの誤情報リスクにどう対応すべきか？

- A. 根拠資料を最初に提示し、事実確認を徹底
最終チェックは必ず人間が行う

Q 2. 画像生成で著作権問題は起きないか？

- A. 有名キャラクターやブランド風は避ける
生成物には「A I使用による作成」と明示

Q 3. 広報におけるA I活用の効果は？

- A. 作業時間短縮・表現の多様化・市民への親近感向上
ただし「不自然さ」や「誤情報」には注意

Q 4. 動画やブログは量と質どちらが重要か？

- A. 動画は「量」が重要（古い動画も視聴され続ける）
ブログは「検索キーワード対策」が重要

Q 5. 議会質問にA Iを使う際の最大のポイントは？

- A. ゴールを明確に伝えること
質問の軸を整理し、前置きと本文を分けることで答弁がぶれない

所感等	<p>【上森 茜】</p> <p>社会全体で急速に広がるAI技術の活用を議会の分野でどう生かせるか学べる研修だった。パネリストの各議員が質問作成から議会広報までAIを幅広く活用している事例が展開された。多くの情報を短時間で簡潔にまとめることができている。広報面において小学生向けの漫画作成から定例会の案内作成の細かい手順まで紹介されたように、様々な面で活用できる点が多い。半面、デメリットもあるので自分自身で最終的な判断をする必要があると感じた。</p> <p>【春川 敏浩】</p> <p>議会活動におけるAIを使った手法は今後益々必要性を感じた研修であった。議員が一般質問を準備する際に、ChatGPTを使って質問文をブラッシュアップし、より明確で説得力のある発言にすることなど、生成AIを活用して原稿の改善や論点整理を行う事例が理解できた。AIは膨大なデータを分析し、政策提言の裏付けや新しい視点を提供でき、政策立案を高度化することができる。定例会のチラシやPR動画の作成にAIを活用する事例もあり、住民への情報発信を効率化・多様化している。議会活動をわかりやすく伝える広報資料をAIで自動生成することで議会広報・情報発信を行える。大いに参考になった。</p> <p>【柄沢 均】</p> <p>議会質問の作成では、課題整理から最終確認までの流れをAIに支援することで、論点を整理しやすくなり、質問の質を高められる。広報に関しては、チラシやレポート、動画をAIで作成する事例が紹介され、市民に親しみやすく議会の様子を伝えることが可能になる。さらに、SNSやブログなどの情報発信はAIを活用することで議会報告をより多くの人に届けやすくなる。AIは単なる便利な道具ではなく、「頼れる相棒」と認識できた。誤情報や著作権への配慮を徹底しつつ活用を進めることが重要であり、当然のことながら、最終的には必ず自分自身での確認が必須である。</p> <p>今回、有名な鷹栖町の議会広報に対する考え方を聞くこともできた。広報活動の参考にしていきたい。</p> <p>【阿部 基】</p> <p>AI技術は現代社会において多くの分野で活用され、日々進化している。今回のセミナーでは実際に活用している議員の例として、議会広報も紹介され、発想の補助として活用する点など、学ぶ点が多くあった。AIを効果的に活用するためには、メリット、デメリットを十分に理解し、適切な対策を行うことが重要であり、AIの導入により得られる莫大なデータ分析などの負担を軽減した効率化や利便性を最大限に活かしつつ、最終的には利用者が責任を持って対応しなければならないことであり、リスクを理解した上でAIを活用することが重要であると再認識した。</p> <p>【三嶋 崇史】</p>
-----	---

生成AIを議会活動にどのように活用するのかについて、それぞれの講師が実践に基づいた自身の活用を学ぶ内容であった。2時間という短い時間の中で、生成AIのメリット、デメリットを始め、資料の作成過程の詳細な説明があったが、正直ある程度の基礎知識がないと分からぬ。実際に利用したことがある人ならまだしも、初心者の私にとっては分からぬことが多い戸惑った。しかし、まず始めることが重要で、自身の活動の道筋にAIを使用することを勧められた。目的に応じ何に使うか。AIと仲良くなると覚えやすい。ブラッシュアップで機能強化し育てる事を学んだ。

社会情勢の変化に伴い、IT技術の急速な発展、目まぐるしく進む情報化社会の波に対応するためには、生成AIを活用していく必要がある。最先端の技術に勇気を持って取組むはじめの一歩が大切であり、寛容に受入れる事で人生や活動の範囲が変わる可能性が生成AIにはあると感じた。